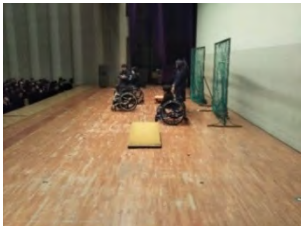
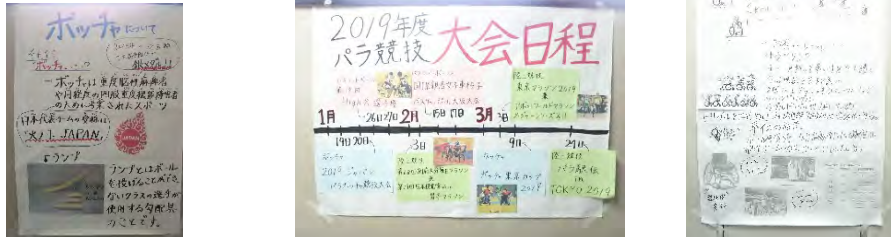


平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」
オリンピック・パラリンピック教育推進校

事業実施報告書

学校名【 横浜市立 横浜商業高等学校 】

1 実践テーマ	【スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築】
2 実施対象者	①スポーツマネジメント科1～3年生 ②全校生徒 ③希望者および地域の方々（約200人）
3 展開の形式	（1）学校における活動 ① 教科名（1年生：YSMプログラム＝総合的な学習の時間） スポGOMⅠ大会の準備・運営 （3年生：総合実践）YSMデーの企画立案・準備・運営 ② 行事名（全校集会：講演会）石井康二さん招聘 （2）地域における活動 ③ イベント名（YSMデー）スポGOMⅠ大会・上原大祐さん講演会 障害者スポーツ体験会実施
4 目 標 （ねらい）	○障害の有無にかかわらず、共に力を合わせて生活できる共生社会を実現するために多様性を理解する。 ア) 障害者理解の学習の推進 イ) トップアスリートとの連携・協働の推進 ウ) 地域との連携強化
5 取組内容	○講演会の実施 ・12月に全校生徒を対象として石井康二さん（元パラセーリング日本代表・現車椅子ソフトボール日本代表監督）をお招きして実施。実際にバッティングを披露してくださった。また、車椅子の試乗や生徒もバッティングを体験できる場面もあった。    ○YSMデーの実施 ・1月12日（土）にスポーツマネジメント科の学科行事として実施。午前中はスポGOMⅠ大会を実施。上原大祐さん（アイススレッジホッケー日本代表）をお招きし、車椅子の操作などをレクチャーしていただいた後、車椅子チームでスポGOMⅠ大会に参加。スポGOMⅠ大会は一般社団法人ソーシャルスポーツユニシアチブの協力によりスポーツマネジメント科1年生が主体となって開催するイベントであり、参加者は地域の小中学生や町内会の方々の他、本校の保護者や生徒希望者など合計約100名が参加。   

	・午後は南区地域振興課・横浜ラパールの協力により、スポーツマネジメント科1～3年生の有志が主体となって、上原大祐さんによる講演会と車椅子バスケットボールやボッチャの体験会を開催。こちらも約100名が参加。 
6 主な成果	○生徒たちの障害者に対する理解が深まった ・障害のある方が決して暗かったり不自由だというわけではなく、生徒たちと変わらない、むしろ明るくポジティブなので、生徒たちが勇気や元気をもらった。 ○障害のある方々との共生社会の在り方について考える機会となった ・石井さんが車椅子生活で、日頃困っていることを教えてくださったので、車椅子利用者や困っている人に対する支援の仕方への理解が深まった。 ○障害者スポーツに対する意識が向上した ・特にスポーツマネジメント科3年生がY SMデーの際にボッチャ体験会を主となって行うことから、自分達だけで体験会を実施してみたところ、その魅力に気づき教員や生徒に対しての情報発信を積極的に行うようになった。石井さんの車椅子ソフトボールもそうだが、今まで知らなかったことでも実際に見たり聞いたりすることで興味が湧く生徒が多く、他の種目にも興味を示していた。 ○オリンピック・パラリンピックに対する関心が高まった ・パラアスリートの能力の高さを目の当たりにして、様々な種目に対する興味も沸いたので、日本で行われる世界最高峰のスポーツ大会であるオリンピックそしてパラリンピックの観戦・ボランティアなどへの興味・関心が高まった。 ○地域の方と教育活動でつながることができた。 ・Y SMデーを実施するにあたり、広報活動で地域の施設を訪れたり、実際に参加してもらうことで顔の見える関係づくりにつながった。
7実践において工夫した点 (事業の特色)	○スポーツマネジメント科以外の人にもスポーツの魅力を伝えるよう工夫した。 ・スポーツマネジメント科の生徒は様々な活動の中で障害者スポーツはもとよりスポーツの魅力を学ぶ機会があるが、それ以外の人にはなかなか接する機会がない。そのため全校生徒や教職員、地域の方々にもスポーツの魅力、特に障害者スポーツを知ってもらうようにした。 ○取り組んだことが記憶に残るように、掲示物を工夫した。 ・2020年まで活動がつけられるように、掲示物を作成し、活動内容を追加し可視化できるようにした。 
8主な課題等	○Y SMデーの講演会や体験会は南区地域振興課や横浜ラパールの方々が形を作ってくださいるので、生徒の意見が反映されにくい部分もある。一方で3年生のその時期は一般受験も控えている生徒も多数いるため、準備の段階から積極的に取り組もうとしない生徒もいる。
9来年度以降 の実施予定	○校内にオリンピック・パラリンピック情報が掲示できる場所をつくり、スポーツマネジメント科の取組を全体化し、積み重ねていけるようなコーナーとする。 ○球技大会でパラスポーツを実施する。 ○デフリンピックやスペシャルオリンピックスに出場するアスリートをお迎えし講演会や体験会等を実施したい。